

モデル事業名	「いちのみや地域応援隊」事業
活動団体名	99BEACHGUARD (キュー・キュービーチガード)
ホームページ	
所属/ 担当者名	小川信次
連絡先	shinjiog04070810@hotmail.co.jp
活動地域	千葉県長生郡一宮町東浪見外 (チバケン チョウセイグン イチノミヤマチトラミホカ)

● 活動地域の概要

本地域は、首都圏から70キロメートルに位置し農業、サーフィンなどを中心とした観光などが主な産業となっている。特にサーフは世界的なサーフスポットとして多くのサーファーで賑わっている。また、昔から西の大磯、東の一宮といわれ有数のリゾートが形成されておりリタイアした人の移住や二地域居住の地としても人気が高い。しかし、本地域でも高齢化が進みつつあり、特に農業従事者の高齢化による耕作放棄地の増大、公共交通機関の不備により高齢者の日常生活（郊外スーパーの進行により、中心市街地が空洞化し買い物にタクシーを使わなければならなかったり、病院への通院など）支障が出てきている。一方、本地域で働きながらサーフィンを楽しみながらスローライフを希望する若者が増えてきており、こうした若者を活用した新たな雇用の創出が急がれている地域である。

【位置図】



【自分で作ったトイレの完成式】



● 活動地域の課題

- ① 高齢化の進展（高齢化率（H17）25.6（千葉県統計年報）、（2020年）34.5（国立社会保障・人口問題））
- ② 農業の崩壊 農地面積（H20：8025千㎡、H12：8209千㎡） 農業従事者（H12：2698人、H17：1345人）
農業粗生産額（H10：3168百万円、H18：262百万円）
- ③ 中心市街地の空洞化 小売店数（H9：157、H19：147）

このような状況の中で社氣的な弱者である高齢者の自立的な生活が脅かされてきている。また、農業の崩壊により農村社会における相互助け合いの関係が崩壊しつつあり、地域コミュニティの空洞化が進みつつある。また、本来それを支えるべき市町村行政も財政難から地域住民の安心・安全な生活の確保も難しい状況となっている。これを補完すべく進められている地域での市民と行政の連携による協働によるコミュニティ作りも市民側の無償による活動に支えられており、地域経済が崩壊するなかで活動する市民自体の生活も脅かされてきており限界に近づきつつある。

● 活動の内容

（全体）

平成21年度の活動：

自立経営型地域支援組織可能性調査（行政の財政的支援に頼らずに、地域での地域支援活動のビジネス化による雇用の創出と地域活性化）

- ① 都市との交流の実験（都市における地元農産物による市、体験農業）
- ② 高齢者への支援実験（買い物代行、病院付き添い）
- ③ 公共施設の維持管理実験（海岸に設置された公衆用トイレの維持管理、海岸清掃）
- ④ 地域コミュニティ再生にかかる集落単位での聞き取り調査
- ⑤ ①から④の活動による経営収支と地域の満足度調査及び課題の整理

平成22年度の活動：

自立経営型事業モデルの確立と組織の立ち上げ

- ① 平成21年度調査結果を踏まえ、継続的自立経営モデルの構築（安定性継続性の確保、雇用の拡大、満足度の拡大を目指して地域のが抱える課題を発掘しビジネスかしていく）
- ② 組織の立ち上げ

平成23年度以降

構築モデルによる事業の展開

(直近1年間の進捗など)

継続的自立経営モデルの構築:

モデル1: 都市との交流(都市における地元農産物による市、体験農業)

モデル2: 公共施設の維持管理(海岸環境保全と海岸利用分野におけるPPPの活用)

モデル3: 緑の分権改革の担い手(再生可能エネルギーの活用、低炭素型町づくり)

以上のモデルの有効性を確認

組織の立ち上げ:

当初、NPO法人化の準備を進めていたが、自立と責任の明確化を図るため運営組織として株式会社方式に変更し準備中

● 活動の成果

・全体

平成21年度の活動をきっかけに、広範なネットワークの構築ができつつあり、その中で新たな課題が発掘されてきた。また、その課題解決を経営モデルとして構築していく試みを行ない安定的かつ持続的な活動へ向けた体制づくりが進んでいる。特に、これまでの地域課題として挙げられていた「地域再生」、「少子高齢化社会への対応」のほか、新たに「低炭素型町づくり」加えたことにより活動の重層化と経営モデルの多様化の道が開けた。

・直近1年間の成果など

地域貢献の事業化を目指して活動(継続的な活動を目指して)

・事業母体の確立に向けて

▼組織づくり

事業母体として、当初、NPO法人化を目指していたが、責任の分担を明確化するため株式会社設立準備中

▼事業収益モデル構築のためのトライとして、

地域支援イベントの企画運営参加(「3月18日、一宮役場前、とまとフェスタ」、「4月10日・11日、天王洲の高層マンション、朝市」、「7月16日から18日、一宮海岸、サーフィン大会」)。

低炭素社会の実現を目指した新しいまちづくりへの参加(移住促進センター運用、エコ農業(廃油再利用によるハウス栽培)、電動アシスト貸し出し事業)

▼地域への浸透

海岸環境整備の継続的な取り組み(トイレ清掃、憩いの広場建設など)



憩いの広場建設



移住促進センターの運営開始



貸し出し用電動アシスト自転車

● 今後の課題及び展望

・課題(活動を通して発見された課題等を記入)

地域再生を観光や移住定住を柱に進めていくところが多く見受けられる。成功例を見てみると地域資源を活かした小さい収益モデルを構築している。(四国のはっぱビジネス、鹿児島島の芋焼酎など)私たちは、地域課題(高齢化、過疎化)の解決を収益モデルとして考え、介護、農産物の首都圏での販売などの事業モデル構築を目指しているが、今年度は、それに加え、政府の25パーセント公約実現に向けた低炭素社会づくりへの参加と事業モデル構築へと活動を拡大している。安定的かつ継続的な活動を行うためには、新しい社会の要請をビジネス化していくことが重要と考えている。

・展望(今後の取り組みや検討について記入)

安定的かつ継続的な活動を行うためには、新しい社会の要請をビジネス化していくことが重要と考えている。当初、高齢者向けサービスの提供を試験的に運営したが期待されたほどの需要がなかった。本地域は、環境問題に対して関心が高いことから、グリーンエネルギーへの取り組みが重要と考えている。また、海岸の利用ニーズも大変高く海岸利用と海岸環境保全をPPPの手法を活用したモデル構築に取り組む(来年度)予定である。

● その他(自由記述)

・今後の地域経営のポイントは、「埋もれている地域の資源、人材の発掘と活用」でありそのための「プラットフォームづくり」が重要である。ハードルを低くして皆がやりたいことを皆のためにやれるプラットフォームと皆が提供されたサービスを評価するシステムの構築が求められ、これらの体制づくりが行政の役割であると考えられる。

・地域マネジメントの守備範囲の細分化(高齢者の可能行動範囲程度)